

金子耕式の **その9** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



人の心はガラス細工

子どもを愛する親御さんたちに、ぜひとも学んで欲しい教訓があります。それは、人前で子どもをどなりつけたり、恥ずかしい思いをさせたりしないように気をつけることです。

忙しい日々の生活で平常心をもって子どもを育てることは至難の業でしょう。ついついイライラして、人前で子どもをしかりとばしたり、自分の子どもの欠点をその子がいる前で他人に愚痴ったりしてしまうことがあるかもしれません。でも、それは百害あって一利なしです。

私が子育ての講演会で話すと、熱心な親御さんたちが、よく私のところにやって来て、「うちの子どものことで相談のつてほしいんですが……」と云われます。

つい先日、あるお母さんの悩みに耳を傾けていたら、一緒に連れて来ていた小学生のお子さんが、いつのまにかすぐ後ろに立っているのに気がきました。その子は自分の欠点が、その日初めて出会ったどこかのおじさんに、包み隠さず話されてしまうことを心配して、母親の後ろで聞き耳を立てていたのです。私は、とっさにお母さんの話をさえぎって、「いや男の子ってそんなものですよ。いいお子さんじゃないですか」と言いながら話をそらしました。

人の心はガラス細工のようなもので、とても壊れやすいのです。そして、一度壊れると修復が難しいものです。だから、特に人前では子どもにみじめな思いをさ

せないように注意を払う必要があるのです。

愛情のない厳しき

子どもたちは、かなり厳しい親や先生に對しても、その厳しさに愛情を感じることができれば言うことに素直に従います。でも、子どものためを思って厳しくするのでなければ、ただ反抗的になるだけです。

私が中学生だったときの話です。成績のいい子だけかわいがる熟年の女の先生がいました。その先生の価値観の中では、勉強ができる子だけが評価されるということが、生徒の目には、はつきりしていました。

ある日、その先生が試験の答案用紙を返却する前に、最高点と最低点を発表しました。そして、最高点を取った生徒をいつものようにほめちぎりました。でも、ほめられた彼は、実はその先生を嫌っていました。

次に先生は、いつも成績がばつとしない山口君という生徒を指差して、こともあろうにこう言いました。

「山口君、君は何をやってもだめね。今度こんな点を取ったら、もう私の授業には出ないでいいから！」クラス全員の前でそう言われた彼は、顔を真っ赤にして、下を向いたまましばらく体を震わせていましたが、ついに我慢の限界に達して先生をにらみつけて言い放ちました。「このくそババア！」そのことを聞かぬや否や、先生は彼の髪をつかんで平手顔で打ちました。

私は、その日のことを今も鮮明に覚えています。多分、クラスの誰もが覚えていたことでしょう。そして山口君は、その日受けた心の傷を生癒することができないかもしれません。

今と比べると、かつては学校の先生はかなり厳しい存在でした。言うことを聞かないと、立たされたり、時には叩かれたりもしたものです。それはともかく、子どもたちから尊敬される先生とそうでない先生の違いは、厳しさとは関係がありませんでした。多少厳しくても、自分たちのことを思って指導してくれる先生は、生徒たちの間で一目置かれていました。しかし、厳しいだけで教師としての權威をふりかざすような先生は、決して良い先生とは思われませんでした。

Vol.3 が 10 月に発売予定です。

「家族に贈るっておきの話」



四六版変形上製本、148P
●定価 1,575 円

「家族に贈るっておきの話」



四六版変形上製本、151P
●定価 1,575 円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕式が自らの子育て経験と、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。